

リレーコラム 17
キャリアの積み方
－ 私の場合

目標は“細くとも長く続けること”

北海道大学病院 大学院生

寺下友佳代

女性の社会進出が進み、女性の諸先輩方のおかげで女性の労働は理解され改善されつつあります。おかげさまで私も職場環境に恵まれ、余計なことに気を揉まれることなく、子育てをしながら自分のしたい仕事と勉強をさせて頂いております。

私は現在小児科医 8 年目、大学病院で大学院生として在籍しています。夫は同病院消化器内科医、子供は 5 歳の長男、3 ヶ月の次男がいます。現在は次男が保育園待機中で近々復帰する予定です。子育てしながらの仕事は現在も模索中の身であり良きアドバイスはできませんが、これまで体験したこと、感じたことを書こうと思います。

長男は地方病院で後期研修中の小児科医 3 年目で出産、産後 4 ヶ月で職場復帰しました。当初は切迫早産で休養が長期間に及んだため焦りがありました。一方で RS ウイルス感染、中耳炎、胃腸炎など次々と流行に乗る幼い息子に後ろめたさも感じました。両親は双方とも道外で周囲に助っ人もおらず、同じ病院で働く夫と何とか乗り切らなくては、と肩肘張っていました。休むことを憚られ、息子が具合悪くなると入院させて付き添いの合間に働き、当直の日は夫に全面的に頼りました。社会人としての立場と母親としての立場の間に悩み、葛藤した日々でしたが、こんな悶々とした気持ちを明るくしてくれたのが息子でした。保育園にも嫌がらずに通い、徐々に遅くなり、毎日笑顔で出迎えてくれました。少し成長すると自分を気遣う言葉も聞かれ、子育ても仕事も中途半端では息子に申し訳ないと思い、始めたことはやり遂げようと吹っ切れました。また同時に育児の大変さ、心配する親の気持ちが改めて理解でき、それまで自分が病院で診ていた子供達が生活のわずかな一部である点であり、普段の生活を含めた子供達を線として想像できていなかったことを恥ずかしながら気付かされました。

現在の大学病院では上司や同僚のおかげで勤務時間や当直、出張について配慮を頂いています。夫には当直の日程調整をもらい、可能な限りの協力が得られています。自分が周囲に迷惑をかけている分は将来少しでも医局や社会に返せるように、そして今後同じような経験をするかもしれない後輩のため少しでも役立てるように、細くとも長く小児科医を続けること、そのためには毎日できることを少しでもやる、それが今の私の目標です。そして将来、夫や息子達、遠方の両親、お世話になった上司や同僚に胸を張って感謝できるようにしたいです。

【著者略歴】 てらした ゆ か よ
寺下友佳代

平成 17 年 旭川医科大学卒業

初期研修終了後、北海道大学小児科医局関連病院で研修

平成 23 年 北海道大学病院

男女共同参画推進委員会より

「皆で集まって太いワイヤーケーブルになろう」

この数年の間に、我々は「医師の働き方改革」を行わなければならないとされています。しかし、24 時間 365 日、人の手を必要とする医療の世界でそれを実現することは非常に難しいとされています。医師負担を軽減する方策の一つとして複数主治医制が提唱されています。一人で 24 時間 365 日、主治医として責任を負うのではなくチームとして責任を持つことで負担は軽減します。医師一人一人は細いワイヤーでも、チームとしてまとまることでベイブリッジまで支えられるような頑丈なケーブルになります。当委員会では、男女問わずたとえ細くとも一人一人が一所懸命「小児医療」という大きな吊り橋を支えることができるよう様々な施策を考え提言していきます。絶えず磨かれているワイヤーは錆びません。細くとも、錆びず、強く、しなやかなワイヤーであることを目指してください。

